

伝える技術 50のヒント



山中秀樹

元フジテレビアナウンサー

著者略歴

山中秀樹 (やまなか・ひでき)

J287

1958年広島市生まれ。81年早稲田大学第一文学部卒業。フジテレビを代表するアナウンサーの一人として報道からバラエティまで幅広く担当。アナウンス室専任部長として、後輩のアナウンサーに厳しい熱血指導を行った。2006年フジテレビを退社し、フリーに。(株)タイタン所属。

ソフトバンク新書 110

つた ぎじゅつ
伝える技術 50 のヒント

2009年8月24日 初版第1刷発行

やまなかひでき
著者：山中秀樹

発行者：新田光敏

発行所：ソフトバンク クリエイティブ株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-13-13

電話：03-5549-1201 (営業部)

編集協力：秋葉高彰 (タイタン)

装 幀：ブックウォール

組 版：アーティザンカンパニー株式会社

印刷・製本：図書印刷株式会社

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。定価はカバーに記載されております。本書の内容に関するご質問等は、小社学芸書籍編集部まで書面にてご連絡いただきますようお願いいたします。

© Hideki Yamanaka 2009 Printed in Japan

ISBN 978-4-7973-4906-1

伝える技術50のヒント

元フジテレビアナウンサー

山中秀樹

ソフトバンク新書 110



はじめに

「アナウンサーは喋りの職人である」

これは私の哲学です。

私は2006年にフジテレビを退社するまで25年間、アナウンサーという職業に就いてきました。

この職業に小さな頃から憧れ、アナウンサーになることだけを目標にそれまでの人生を歩んできたと言っても過言ではありません。

本書の各コラムに綴っていますが、アナウンサーになるために独学でありとあらゆることを勉強してきたものです。

もちろんフジテレビの局アナになってからも勉強は怠りませんでした。

そして、フリーとなつたいまでも、「アナウンサーは喋りの職人である」という哲学を胸に仕事をさせていただいております。

はじめにお断りしておきますが、この本はアナウンサーを目指す人のための実用書ではありません。

むしろ、「口下手の人」「自分の意思をうまく伝えられない人」など、物事を口で表現することにストレスや悩み、苦手意識を感じている方々に向けた内容になっています。

ですから、私がフジテレビのアナウンサー時代に指導した新人アナウンサー向けの練習法などは、あえて排除しました。

アナウンサーならば、滑舌よく、よどみなく喋ることが要求されますが、アナウンサーではない一般の方々にとっては、それを習得すること

がもつとも大切なことだとは思えないからです。

はっきりとした声で、わかりやすく、立て板に水のごとく流暢に喋れば印象がいいというわけでもありません。むしろ嫌味に聞こえることすらあります。訛なまりが抜けない、朴訥ぼくとつであることが逆に持ち味になることもあるでしょう。

もつとも大切なことは、自分の伝えたいことを相手に確実に伝えること。そのためには、別にアナウンサーのような喋りをしなくてもいいのです。話の途中で言葉がつかえたり、噛んだりしても、相手に物事を伝えるという言葉本来の役割を全うできるかどうかが鍵なのです。

早口言葉を話したり、口の動きを滑らかにするための発音の練習を繰り返したりすることも、私自身、やってきたことですから否定はしませ

ん。しかし、それよりも物事を確実に相手に伝えるための本質をお伝えしたいと思います。

物事を人に伝えるのに大切なのは、「聞く」「見る」「読む」です。

どれも情報を入力（インプット）するということです。物事がしっかりと自分の中に蓄積されなければ、出力（アウトプット）もままならないのです。

つまり、物事を伝える技術を上達させるためには、それとは逆に、物事をインプットすることが、まずは大切になるということです。

そのために、これまでのアナウンサー人生で私が培ってきたノウハウをみなさんにインプットしていただけたらと思っています。

もちろん、物事を正確に伝える、はっきりと伝えるというアナウンサーの技術は、知識として知っておいて損はありません。そういう面での

ノウハウも存分にお伝えしたいと思います。

みなさんの喋る力、伝える力の向上に一役買えることを願ってやみません。

目次

はじめに

3

01

まずは人真似から

15

02

話すことの究極は聞くこと

19

03

トス上げ上手

23

04

日本語にアンテナを張り巡らす

27

05

豊かな表現法

31

06

正しい日本語と俗語的な日本語

37

07	使えない言葉と使わない言葉	41
08	活字に触れて ボキヤブラリー 語彙を増やす	45
09	小説のご利益	48
10	短い喋り	52
11	単調な話し方	57
12	ちょっと誇張した描写力	61
13	頑張りすぎの過剰な演出	65
14	相手の反応を感じとる	69
15	見た目と喋り	73
16	緊張しないために	78

17	緊張感を味方につける	82
18	非日常を日常に変える	86
19	下準備という愚直な努力	90
20	余裕と一人前	95
21	下準備のコツはキーワード	100
22	ライブ感を大切に	104
23	楽観主義のすすめ	108
24	よどみない喋りの功罪	112
25	自分の声を聞く	116
26	詐欺師に学ぶ	121

27	「ゆっくり」の具体的速さ	125
28	新人アナが注意されること	129
29	反面教師	133
30	力点の置き方	137
31	緩急自在の喋り	142
32	横文字の使いこなし	146
33	口角の上がり	150
34	上っ面の話術	154
35	言いづらいこと	157
36	繰り返しの技術	162

37	好循環を生む	166
38	褒めること、相手の心	169
39	愛情を持つ	173
40	相手への誠意	177
41	難解な敬語の簡単な基本	182
42	面接は勝負服で	185
43	通勤電車の中で	189
44	生活改善と話術	192
45	礼儀、礼節も伝える技術	196
46	誇張表現と嘘	201

47 美しい言葉

204

48 声の大小と距離感

208

49 「さ行」と「ら行」

212

50 話は1分単位で

217

おわりに

222

C O L U M N

カメラデビューは台風中継

36

小学生の頃からアナウンサー志望

56

発声練習で飛ぶ唾で床が真っ黒に!?

77

NHKのニュースを録音、テープ起こしして訓練

99

標準語のアクセントという壁

120

行動のすべてが「アナウンサーになるため」

141

早稲田大学アナウンス研究会

161

6 大学野球を4年間実況

181

中尾彬さんから褒められた

200

男性アナと女性アナの違い

221

01

まずは人真似から